

くまもと未来会議 議事録

日 時:平成25年2月9日(土) 14:30~16:30

場 所:熊本全日空ホテルニュースカイ 2階 スtringス

テーマ:アジアとつながる

出席者:井尻 秀憲 委員 (東京外国語大学大学院 教授)
数佐 明男 委員 (熊本県産業政策顧問)
古城 佳子 委員 (東京大学大学院総合文化研究科 教授)
田中 浩二 委員 (九州旅客鉄道株式会社 相談役)
橋田 紘一 委員 (株式会社九電工 代表取締役社長)
松島 正之 委員 (ボストンコンサルティンググループ シニア・アドバイザー)
蒲島 郁夫 議長 (熊本県知事)

【事務局】

それでは、お待たせいたしました。ただ今より「くまもと未来会議」を開催します。私は、会議の事務局を担当しております、熊本県企画振興部企画課の坂本と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、本日御出席の委員の皆様をご紹介させていただきます。

東京外国語大学大学院 教授 井尻 秀憲 委員

熊本県産業政策顧問 数佐 明男 委員

東京大学大学院総合文化研究科 教授 古城 佳子 委員

九州旅客鉄道株式会社 相談役 田中 浩二 委員

株式会社九電工 代表取締役社長 橋田 紘一 委員

ボストンコンサルティンググループ シニア・アドバイザー 松島 正之 委員

なお、本日お配りしております県の取組み状況などをまとめた参考資料につきましては、事前に委員の皆さまにもご覧いただいておりますので、説明は省略させていただきます。

それでは、これより議長が会議の進行を行います。蒲島知事、よろしくお願い申し上げます。

【蒲島議長】

皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しい中、委員の皆さまには、「アジアとつながる」をテーマとしたくまもと未来会議にご出席いただきありがとうございます。また、たくさんの方の傍聴の方に来ていただき、誠にありがとうございます。

私は、今、熊本県知事として2期目を迎えましたが、2期目の目標として4つ掲げています。1つは、活力を創ること。2番目が、アジアとつながること。3番目が、安心を実現すること。そして4番目が、100年の礎を築くことです。その2番目の「アジアとつながる」というテーマで、この未来会

議を開催しています。

実は、先日、台湾と香港にトップ外交に行ってきました。トップセールスの大きな目的は3つあります。1つは、トップの方々と会談することです。台湾では、馬総統や、2番目に大きな都市である高雄の陳市長とトップ外交を行ってきました。そこで、熊本と台湾の関係、熊本と香港の関係を新たに築くことができたのではないかと思います。2番目の目的は、台湾と熊本の間で新規航空路線を開くことです。これからの展開が大事だと思いますが、その可能性はとても大きいと思っています。今回、台湾と香港に初めてくまモンを連れて行きましたが、くま蒙の影響がとても大きいことが分かりました。熊本県は知らないが、くまモンは知っているという感じでしたので、くまモンを先頭に県産品の輸出と観光戦略を進めていきたいと思っています。

また、中国の広西壮族自治区との友好関係が、30周年を迎えています。この30年の友好関係は、阿蘇の集中豪雨の時の見舞金として、広西壮族自治区から30万ドルをいただくという形で表れました。30万ドルというと、3,000万円と捉えがちですが、中国の貨幣価値で考えると3億円ぐらいの価値はあるのではないかと思います。それだけ熊本に対する好意があったということが、この30年の友好関係の実りではないかと思っています。それから、長い間、広西壮族自治区の書記を務めておられました郭声琨（カクセイコン）さんが大出世を遂げられて、今回副総理格で中央政府の公安部長に就任されました。郭さんからの手紙を委員の皆さまには配っていますが、とても温かい手紙をいただきました。そういう形で、広西壮族自治区との関係、中国との関係も固まりつつあると思っています。

それから、韓国の忠清南道との友好関係が30周年を迎えています。こちらも、これから着実に友好関係が進んでいくのではないかと思っています。熊本とアジアの今の関係はそういう状況ですが、今日は委員の皆さま方に、様々な観点から熊本とアジアのつながり方について、ぜひご意見をいただきたいと思い、この未来会議を開催しました。それではよろしく願います。まずは井尻委員からお願いします。

【井尻委員】

私は、東京外国語大学に勤めていますが、母の実家が熊本県鹿本町庄にあり、実は蒲島知事の実家とほとんど目の先ぐらいのところだったのです。そのことは後から知りました。蒲島知事は筑波大学で同僚だったので、以前私が熊本に来た際に、「熊本の文化外交を少し手伝ってこないか」と言われ、私は「はい」と申し上げました。今日は、時間の関係で多くは語れないと思いますので、少しフォーカスを絞ってお話していきたいと思います。

まず一つは、「アジアとつながる」に関する参考資料を拝見しましたが、いろいろなことをされていると思います。それから、今日の読売新聞の丸々1ページを使って、「熊本の肉がおいしい」というのを、知事が柔道の山下泰裕氏と話をされていたのを拝見しました。非常に積極的に熊本のためにがんばっておられると思います。それでは、アジアとつながる、あるいはアジアの市場にどう打って出るかという問題ですが、国がすべき点と県がすべき点、できる点に分かれる、あるいは県が国と連携してやっていく必要があるかと思っています。私は、もう既に中国の方でされていること

は、それはそれでいいのではないかと思います。むしろ、これからはASEAN、東南アジアの方に力を入れていかれたらいいと思っています。もう既に、アメリカの外資は、中国よりも東南アジアの方が多くなっています。特に、中国であればやはり上海以南、四川、南京、広州、特に雲南です。ですから、広西壮族自治区の熊本広西館の開設というのは非常にいいと思います。

しかし、資料によると、地場産業の海外進出数等は福岡が圧倒的です。その辺りがなんとかならないのかと思います。一番使えるのは、アメリカの『ウォールストリート・ジャーナル』の2013年1月8日の日本版、電子版に、「ゆるキャラが自民参戦」という記事で紹介されているくまモンです。全国、海外でも知られているくまモンの実行力というものを安倍総理が持てば、アベノミクスもかなり効果を出すのではないかという記事が日本でも出ています。それは、熊本県のもので、熊本県の知事の実行力が大事です。このくまモンをふんだんに展開して、アジアとつながる、アジアの市場に打って出るだけではなくて、またこちらに返ってくるというようなことをやっていかなければ意味がないと思っています。

それから、ASEANは、生產品の輸入・観光。これはタイで出入りがかなり増大しており、続いて重要なのはベトナム、インドネシア、フィリピン、シンガポール。ベトナムのハノイはまだインフラ整備が必要なところですから、国がするべきことだと思います。ただし、ベトナムは、貿易や電力でかなり中国に依存しています。その辺をベトナムは分かっている、安全保障では強い反発を持っていますが、経済では相互依存です。非常にしたたかな外交を展開していると言えます。それからフィリピンも重要です。中国が南シナ海を「核心的利益」、つまり絶対譲れない地域に加えると言ったとき、東南アジア、とくにベトナム、フィリピン、シンガポールまで、ものすごい脅威感が出たのです。そして私は、これから一番重要なのは、ミャンマーだと思っています。ミャンマーのアウンサンスーチーが動けるようになったことで、アウンサンスーチーは「民主の顔」になるわけです。同時に「ポスト・チャイナ」です。つまり、もはや中国は、もう5年ぐらいたらそろそろ崩壊を始めるだろうと思います。中国国内に抱えているような農村の潜在的失業者2億人、都市と農村、貧富の格差、官僚の汚職などのいろいろな問題を考えると、10年待てば政治改革が始まると思います。しかし、共産党があと10年もつかどうかは実は非常に分かりづらいのです。つまり、中国の場合、5年以降は改革の動きと崩壊過程が同時進行することになるという気がしています。

また、韓国の大統領選挙で勝った朴正熙の娘さんの朴女史が、スーチーに早速会いに行っています。こういうところは、やはり韓国はすごいです。もちろん、日本側も麻生副総理がミャンマーに行っているの、それなりにいい面はあったと思います。ただし、東南アジアと中央アジアというのは、中国からみれば自国の「裏庭」だと思っているのです。そこに入っていくことは、余程注意して行かなければならない。ある政治家が、「中国を封じ込める」と言っていますが、これは言うてはいけないことなのです。これは、逆に中国が言うことで、日本の方がそれを言うてはいけません。70年代ぐらいから申し上げていますが、日本が東南アジアに向かうのは、封じ込めではなくてASEAN諸国と友達になり、日本外交の選択の幅を広げるために行くのだということです。その意味で東南アジアへ行くこと自体は悪くはないのですが、安倍総理は、本来ならアメリカに先に行って、日、韓、米、豪の同盟国の再強化を図った上で東南アジアに行けばよかったと思います。ただし、アメ

リカに行くに当たっては、時間調整だけではなく、TPPに関する日本側の意見をある程度まとめて来るようアメリカの要求があったわけですが、それをまとめるのは、次の参議院選挙の前までにやらなければならないと思っています。

それから、資料では海外の宿泊者数が圧倒的に少ない。実は、私は、高校時代に自転車で福岡から平戸を回って長崎を経由し、雲仙を抜けて三角の方に出ました。本来なら、阿蘇の黒川温泉辺りまで行く。そのときに、熊本で1泊してもらい、熊本城と水前寺公園を見て回るようにすれば、横の関係でつながってきて、熊本にも泊まってもらうことが可能ではないかと思います。

【蒲島知事】

次に、数佐委員お願いします。

【数佐委員】

私は以前、自動車会社のHONDAで、海外のプロジェクトや、海外事業所の責任者、直近の前職では、熊本県でHONDAのソーラー事業を立ち上げるということで、立ち上げから5年半ほどやらせていただきました。その間ずっと熊本県の皆さんには大変お世話になり、今、こういう職を得てぜひ皆さん方にお返ししたいと思っていますのでよろしくお願いします。

初めに、昨年後半に中国の上海、ベトナムのハノイ、タイのバンコクの企業を回ってきました。直接、現地の日系企業のトップと面会していろいろな話を聞かせていただきました。中国に関しては、先ほど井尻先生からもありましたが、例の反日の影響を大変引きずっており、事業を立て直すのにもう少し時間がかかるかと思っています。まさに、中国リスクを目の前にして、肌で感じているわけですから、物理的なダメージよりも、経営者の皆さんの精神的なダメージが大変大きいと皆さんおっしゃっていました。昨今の大気汚染等の環境問題や労働コストの上昇など、私個人的には中国の世界の工場の役割が終わりつつあるかと思っています。その一方で、中国は消費大国ということもあり、経営者の皆さんは、将来の市場を見据えて引き下がるわけにもいかず、大変ジレンマを感じているというのが本音ではないかと思っています。

その一方で、ASEANに関しては、やはりチャイナプラスワンということもあり、ますます活況を呈していると実際感じました。ベトナムでは、ハノイの郊外の新しい工業団地に行ってきましたが、日本の大手半導体関連が、日本ではあまり見たことのないような新しい立派な工場を建設中で、その近辺にも同じ団地の中にHONDA系などいろんな会社が新しく工場を建設しているのを見ました。

一方、タイは更に活気があり、すっかり洪水からは復興して、洪水前の直接投資の水準を更に上回る勢いで投資が進んでいます。特に、自動車を始め製造業は、タイだけではなくてASEAN全体の市場を見据えた戦略として、タイをASEANの拠点作りにするということです。先日は、HONDAの第2工場やスズキの新しい工場、GMフォードの工場の近くに行ってきましたが、それぞれものすごい勢いで増量が始まっています。私もホテルが取れなくてバンコクまで戻りましたが、近くのホテルはほとんど満室であるという状況でした。更に、タイの失業率は1%を切っており、ほとん

ど完全雇用の状態で人が不足しています。近隣のカンボジア、ラオス、ミャンマーから安価な労働力を注入していると聞いていますが、おそらく労働集約型の企業というのは、そういった近隣の安い賃金を求めて移転していくのであろうと思います。タイ自体は、従来の途上国型、労働集約型の産業から、付加価値の高い先進国型の産業構造に展開したいということ、先日も東京のタイの投資委員会のトップと話をしたときに盛んに言っていました。従って、生産効率の向上や自動化、省人化、環境エネルギーといった先端技術の育成に力を入れてきたし、そういうところにどんどんインセンティブを与えたいと言っていました。これらの技術は日本のお家芸です。タイは既に7千社以上の日系企業が進出しており、そのうちの半分が製造業で更に半分が中小企業です。決して遅いわけではなくて、日本のものづくりの得意技である効率アップのような分野は、これからの市場だと思っていますので、今からでも遅くないということです。

今日のテーマである、アジアの活力をどう熊本に呼び込むかということですが、先ほど言いましたように私は長い間製造業でやってきたので、ものづくりという観点で少しお話をさせていただきます。

日本のものづくりは元気がないと言われていますが、ものづくりというのは国の原動力、国のエンジンであると思っています。このままでは、国は衰退すると非常に懸念しています。経営者の皆さんは、円高やデフレ、少子高齢化等外因に責任を転嫁していると思いますが、円高といってももう何年もずっと円高なのでその間何をやってたのかとお叱りを受けるかと思っています。日本のものづくりを再び元気にするためには、私は3つのキーワードだと思っています。

1つ目は、イノベーションによる新価値の創造で、新しい技術や商品、市場を作っていくということです。2つ目はグローバル化。これは、成長する市場の開拓、あるいはものづくりの業務は、やはり市場のあるところでものを作ると、そこに人、もの、金を投資して中長期的にもものづくりの基本を作っていくということだと思います。3つ目は、そのイノベーションあるいはグローバル化を達成し、実行できる人の活用、育成。特に、若い優秀な人材、技術者を育成する。老人蔑視ではありませんが、若い人に頑張ってもらおうということだと思います。

1番目のイノベーションについては、今日のテーマと外れますのでまたの機会にさせていただきます。2番目のグローバル化は、今日のテーマで言いますと、私はアジア化を進め、アジアに打って出ることだと考えます。海外に行くと日本の空洞化が始まると皆さん言いますが、空洞化の前に会社、産業が無くなってしまおうという危機感を持っていただきたい。経産省のデータでは、海外で展開している企業の国内雇用は増加しているというデータもあります。そういうことを信じて、とにかく手広くやっていただきたい。

皆さんご存知だと思いますが、有名な東京都大田区のオオタテクノパークがあります。企画・実行した大田区の産業振興協会の専務理事と実際企画した人にお話を聞かせていただきましたが、非常に参考になると思います。バンコクの郊外に非常に大きな団地があり、日本の東レやソニー等が入っています。大田区には中小企業が沢山ありますが、その団地の一角を大田区が買い上げて更に小さくし、そこで中小企業がタイでのものづくりの事業ができるように支援しています。3年間ぐらいのリースで、3年後はそこを卒業し、更に大きくどこかに出て行って新しいモデル

を作ってもら。あるいは、3年やったけどだめだったら撤退してもいいわけです。躊躇している中小企業を谷底に突き落とすのではなくて、少し背中を押してあげる。レールを敷いてあげる。このいいところは、全部面倒を見ないということです。最初だけ面倒を見て、あとは自分たちの自主性やチャレンジ精神で大きくしていってもら。ビジネスはそういうことだと思います。あんまり全て行政がやってしまうと、保護主義になって自分たちの自主性が失われます。ただし、最初のスタートだけはきっちりやっただけあげようということだと聞いています。海外で会社を作ることは非常に難しく、私もいろいろ苦労してきましたが、タイの場合は、投資規制やインセンティブ、会社規制、いろんな規制があります。そういうことは全てやってくれて、とにかくスーツケース1個持って行けば会社ができるということなんです。

熊本県でも専門チームを作っただけで、こういうお手本のまねをするということではなく、オオタテクノパークの良いところ悪いところ、あるいは熊本の産業構造は大田区とはだいぶ違うので、そういったところをしっかりと取り入れた熊本テクノパークを、ぜひアジアにつくっていただきたい。それを検討するに当たっては、県内にはかつてアジアで活躍した企業のOBの方が沢山おられるので、若い人を育てるのとは別に、高齢者をどんどん活用して検討していただきたいと思っています。

高齢者の活動ということでは、中小企業は海外に展開する人材が少ないので、そういった意味では、経験や知識が豊富で高い技術を持った高齢者をもっと活用できる仕組みを作って、熊本も含めて日本のものづくり全体の活性化に貢献させたいというのは、私が持っているテーマの一つです。ぜひ、中小企業と老人パワーのマッチングを熊本でもやっていきたいと思っています。特に、海外展開には有効だと思っています。

次に、3番目の若い人の育成ですが、人の交流が活性化のカギであると思っています。先日、経産省のセミナーに行ったのですが、グローバルインターンシップ等の話に非常に感心して帰ってきました。これは、アジアの企業に日本の企業から若い人をインターンシップとして送り込み、人材育成あるいはネットワーク形成を一気にやっただけおもうということです。昔は、よくアジアから日本に研修に来たのですが、今は逆です。日本からアジアの企業に行って、そこで若い人たちが育ったり、ネットワークを作ったり、販路拡大をして戻り、それから本格的に進出するというプログラムだそうです。しかし、これは一方通行なので、私は2ウェイの方がいいと思っています。交換留学生という制度が昔ありましたが、日本のA社からアジアのB社に行ったら、B社からA社に来てもらい、交換留学生でお互いにWin-Winの関係を作ることがいいのではないかと思います。

最後になりますが、人の交流にはやはり物理的なアドバンテージが必要です。先ほど、知事から台湾との直行便の話がありましたが、とにかくアクセスをもっと容易にしなければ、九州はアジアの玄関だと言っておきながら、福岡が玄関のようになっています。アジアは近くて遠い国ですので、ぜひ、熊本がアジアの玄関になれるように、せめて熊本から直行で行き来できるインフラをつくっていただきたいと思っています。

【蒲島議長】

ありがとうございました。それでは古城委員よろしくお願いします。

【古城委員】

蒲島知事はご存じないと思いますが、夫の父方が熊本の出身なので、そういう意味でご縁があります。この会への参加を依頼されたときに、夫がぜひ引き受けてくるように言いましたので、熊本に来るチャンスができて大変喜んでます。

私は大学で、国際政治の中でも、経済的な相互依存の関係がどのように政治に影響を与えるかということを課題とする「国際政治経済論」に関心を持って研究しています。

熊本の国際的な取組みについて送っていただいた資料を拝見し、いろいろな取組みをされると感心しました。本日は、私がコメントできるところに絞って話をしたいと思います。

一つは、この「アジアの活力を取り込む」という点についてです。日本全体がそのことを今スローガンにしてやっていると思います。「活力を取り込む」、「成長を取り込む」というのがどういうことかという、それは皆さんご存知のように、日本が少子高齢化で市場規模も非常に小さくなっていき、労働力人口も少なくなっていくのに比べて、世界全体で中間層、富裕層は、これからの10年で13億人ぐらい増えていくと考えられています。その中でも、特にアジアでの中間層の拡大は著しい。中国、インドは言うまでもなく、インドネシア、カンボジア、タイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマーといったASEAN諸国の中間層の拡大が、これからの10年で非常に大きくなっていくというのが、まさに「アジアの成長」だと思えます。そこで、今の不況の状態をどうするという問題以上に、この先のことを考えると、やはりアジアに布石を打っておくことは非常に重要だと思います。

冒頭で、蒲島知事が中国の広西壮族自治区や韓国の忠清南道との交流のことを話されました。それも、熊本との間でかなり古くからの友好関係があり、それが現在、例えば水害のような非常時に助け合うという実を結んでいるということをお話されました。やはりこの先のことを考えると、特に東南アジアとの間にいろいろな布石を打っておくことが重要ではないかと思えます。特に中国は、他の先生方が話されたように、政治的リスクが今非常に上昇していると思えます。おそらく現在の緊張関係というのは、短期的に解決できるような問題ではなく、かなり長期化すると思えます。一時的に関係が良くなっても、また政治的な問題で悪化するということがあり得ると思うのです。その可能性を考えると、中国以外の中間層の拡大が見込まれている東南アジアの方にも、布石を打っておくことが必要ではないかと思えます。

現在、熊本県は、シンガポール、タイ、マレーシア等において、プロモーション等を行われているようですが、インドネシアというのはお考えになっていないのでしょうか。この資料によると、熊本はインドネシアからの留学生の数が多いようなので、そういうところはお覧になったのかなと思えます。

「市場に打って出る」というのは、熊本の産品をどのように売っていかうかということ、最初のスタートラインにしておられると思えます。熊本の農産品にとっては、そういうところの販路を開けるというのは非常に良いことだと思います。しかし、あちらに地場産業が打って出ていく、投資してい

くというのは、県独自で取り組むにはいろいろなハードルがあると思います。東南アジアの国は、まだインフラの整備などがそれほどできているというわけではありません。法制度の整備の面でも、例えば地方自治体に投資していく場合にいろいろな規制があり、それも国によってかなり違うようです。日本の政府も、こういうものをクリアさせるために、ジェットロなども使って、現地に相談窓口を設けています。熊本県の産業が少なくともどのような状況でそこに進出できるのか。やみくもに進出するのはどの企業もリスクがあり非常に難しいと思います。県独自でのリスクの判断等はかなり大変だと思います。ですから、熊本も政府のそういう窓口と連携しながら、相談窓口や現地の情報提供などを積極的にやるということが非常に重要だと思っています。

もう一つは、それに関連しますが、私は大学におりますので、熊本の施策4の「留学生から選ばれるまちを創る」という留学生の問題についてお話します。これも、日本全体で今非常に重視していますが、その一つは、留学生の数が減っているということです。大震災が起こった後、減少し少し盛り返していますが、やはりまだ大震災の頃までは回復していません。留学生数が頭打ちだという問題には、日本が置かれている長年不況にあるという状況、あるいはGDPで中国に抜かれたりしていますので、世界の観点からするとやはり日本の地位というのは少し魅力がなくなっているということが関係していると思います。留学生が日本にこぞって来ていたというのは、日本が経済的にかなりまだ希望の持てる段階の頃のことなので、これは一つの自治体だけの問題ではなくて、日本がそういう立場にいるということは認識すべきです。その中で、今政府でも留学生をどうやって増やすかということに一生懸命なのですが、一体なぜ留学生を増やさなければいけないのか、どうして人数が増えていけばいいのかということをもっと積極的にアピールしないと、留学生が増えることがいいことかというのは、大学にいる私たちにとっても一般の人にとっても、なかなか理解できないわけです。一般的には国際交流することがいいとか、あるいはいろいろな文化の人と日本の学生が交流するのがいいと言われており、それはもちろんそうですが、もう少し戦略的に考える必要があるのではないかというのは、私が前から思っていることです。

例えば、オーストラリアは、留学生政策をすごく戦略的に位置付けています。オーストラリアは英語を話す国ですので、それを前面に押し出して、東南アジアから多くの学生を集めており、オーストラリアの中では一大産業のようになっています。アジアの活力を呼び込むことにもつながっています。熊本の取組みを見ますと、留学生の数を増やすことがいいことだと言っているだけではなく、それをどう使おうとしているのかが見えるところがいいと思います。つまり、熊本を海外に発信するアクター“モンバサダー”として留学生を使っていこうということ。留学生を増やすということを、熊本の発信につなげるような試みは大変いいことだと思います。ただし、例えば福岡に比べると留学生の数が断然少ないのは、福岡が九州の窓口になっているからだとは思いますが、もう少し熊本は増えてもいいという気がします。東南アジアの方とつながっていくことを考えると、留学生を増やして、その留学生に日本の地場産業に就職してもらい、現地との橋渡しをしてもらうとか、そういう形で留学生政策を位置づけることができると、地方ならではの取組みができるのではないかと思います。東京で留学生を増やすという問題を扱っていますと、一番ネックになるのが住居です。非常に住居が高い、大学では寮は提供できない、寮の立ち上げはお金がかかるというこ

とで、一番ネックになるのはどこに留学生を住まわすことができるのかということです。そういう点では、地方は留学生にもっと魅力的な条件を提供できる素地はあるのではないかと考えています。こういったいろいろな政策がどうつながっているのかということを考えて取り組まれるといいのではないかと感じました。

【田中委員】

私は、JR九州の社長会長も卒業して、今は相談役ですが、熊本県天草郡河浦町の生まれで、そういう意味で熊本の大ファンです。

私は、3点申し上げたいと思います。1つはJR九州というドメスティック専門の会社の、海外展開の事例の一つ申し上げます。2点目に、アジアからの観光客の集客のための施策の一例を申し上げます。3点目は、県からいただいた資料の中で、県内企業の海外支援についてのアイデアの一つ申し上げたいと思います。

まず、JR九州の海外展開ですが、アジアに近いという地理的優位を生かして、アジア各国の成長を会社の成長戦略に取り込むというのが方針です。先生方がおっしゃったように、少子高齢化や低成長により、日本の市場は縮小しています。そこで、成長著しいアジア市場に将来大きく打って出るという布石を確保するために、まず中国へ進出をしました。上海を選んだ理由は、中国の中でも経済成長が著しいということが一つと、現在人口1,900万人と言われていますが、短期滞在も含めると日本人の滞在者は10万人です。それから、福岡ー上海間の航空便が毎日3便あります。著しい経済成長、日本人滞在者の多さ、アクセスに優れているという理由で上海を選んだわけです。

平成22年4月に上海事務所を立ち上げ、いろいろな情報を収集したり、上海鉄路局といろいろな交流をしていました。平成24年3月20日に、外食産業の第1号店、「赤坂うまや上海静安(じんあん)本店」を出店しました。ホテルやオフィス街の近くに3階建ての建物を借りて、約200坪163席でやっています。これは和食ですが、むしろ鳥料理です。赤坂と付けたのは、東京の赤坂が大成功しているからです。開業したのは約1年前ですけど、それ以来だいたい1日に50万から90万、日本円でそれだけの売り上げはあります。昼間は中国人が約7割から8割、逆に夜は日本の滞在の方が7割から8割です。

第1号店は今のところ成功しております。先ほどおっしゃった尖閣問題は昨年9月ですが、上海はほとんど荒れておりません。乱暴・狼藉(ろうぜき)はありませんでした。ただ、9月18日の満州事変勃発の日だけは、中国当局の勧めもあり、デモ隊が前を通るのでランチだけは中止しました。デモ隊は、日本の領事館に行ったり、手前を通っただけで何の被害もありませんでした。現在は、うまや2号店を探しておりますが、尖閣問題があり、いろいろと困っているという状況です。1号店は成功していますが、外食産業以外にもいろいろ考えていきたいというところです。

2点目は、アジアからの誘客というと、一番分かりやすいのは切符です。九州レールパスにはいろいろなタイプがありますが、全九州で5日間乗り放題、特急も新幹線も乗れて5日間で1万7千円。これは、日本にいる方は買えず、アジアなど外国の人だけが買えます。相当古く10年前から

始めましたが、3年前から急激に増えました。2010年は1年間で5万人以上でした。2012年はまだ正確な統計は出ていませんが、7万人以上ということです。その他に、オールジャパンでジャパンレールパスというのがあります。これも海外でしか買えません。これは九州で引き換える方が、昨年在9,700人だったので、合わせるとだいたい8万人ぐらいの人が、九州の中のJRを利用していただいているという状況です。2点目の、集客のための施策の1例をご紹介します。

最後に、いただいた資料を読ませていただきまして、かねてから熊本県は海外に目をつけておられ、知事を先頭にトップセールスでいろいろされておられます。海外に進出する企業への支援ですが、シンガポールや台湾で熊本フェアを行う際、販売のコーナーを設けたいという進出に熱心な企業に対する県の助成金はあるのかお伺いしたいのが1点。それから、海外に進出する企業は熊本も沢山あると思いますが、それを広く県の広報紙やいろいろなところで紹介をしてあげ、場合によっては優秀企業として県の表彰があつたりすると、企業の方々の励みになるのではないかと考えた次第です。

【蒲島議長】

ありがとうございます。それでは橋田委員からお願いします。

【橋田委員】

私は、議長蒲島知事のことを蒲島先生と申し上げております。蒲島先生が、東京大学へいらしたときの「国のかたち作り研究会」という勉強会に出席していたからです。古城先生も一緒に学んだ間柄です。熊本県知事になられてからは、熊本のために未来を考える会議のメンバーとして、提言をしてほしいと言われ、第1回目のくまもと未来会議から参加させていただいております。

その第1回目のときに、熊本をどうやって活性化させるかというテーマだったのですが、ご無礼ながらも「熊本は観光と1次産業しかないのでは？」というようなことを言ったところ、「ではどうすればいいのか」と言われたので、「特に1次産業を活性化することをおやりになったらいかがですか」と申しました。「それでは、あなたは何かできるのか」と言われたので、「九電工も一緒にやります」と申し上げましたのが、始まりです。

その後、1年間ほど検討し、現在は、天草でオリーブの栽培をしております。6次産業を企業として取り組んでちょうど3年になります。ご存知のように、1次産業というのは現地で生産をすること。2次産業は商品を作るということ。3次産業がこれを販売すること。これらを足して6次産業と言います。植木を約2千本植えましたので、2年半経って5年目にして、昨年約500キログラムのオリーブの実がなりました。マイオリーブということで、全て品種の名前と管理番号を付けて植えております。蒲島知事と天草の安田市長と私の木も植えておまして、それをそれぞれ収穫しました。天草に実がなるということはもう確証できましたので、3年間のパイロット事業を終えて、既に100種類ほどの商品開発をしており、目下、マーケティングや販売に注力している状況です。目的は、天草では、県外に流出する方などで、毎年5千人規模で減少しております。併せまして、農業の後継者がおらず、耕作放棄地が沢山できております。そういうことをなんとか我々も地場企業

として応援できないかということで検討を重ねました。

農業協同組合とバッティングせず、身体や健康に良いもの、天草の知名度向上などを考え、オリーブに到達したわけです。現在、1万本強植えています。弊社が直営で2千本、残りの約9千本は、天草で農業をされている方々が共同参画事業者として植えていただいています。これが全部開花し、実がなれば、小豆島を抜くことができるのではないかと考えています。それくらいの思いを持って、10年間かけて10万本にしようと思っているわけです。この根拠は、天草の市民一人一本植えて貰おうということです。そして、なった実は全部我々が買い取って販売するというので、天草を一大オリーブブランドにしようと言っています。

現在、商品を福岡の天神や渋谷の商業施設「ヒカリエ」の5階で、売り出しております。

前置きが長くなりましたが、本日いただいた資料を拝見し、私はこの4つの施策について非常に素晴らしいと思いました。ぜひ蒲島知事の下で、戦略アクションアジアという熊本県の4つの施策を確実に実施していただきたいと思います。その時に、我々企業も巻き込んでいただきたい。我々にも応援できることもありますし、ギブアンドテイクもありますので、ぜひ進めてほしいと思います。

弊社九電工も深く熊本に関わらせて頂いております。今回のテーマに3点ご提案があります。

まず、1点目は、現在天草での取組みを、県からもご助成いただいておりますが、さらに、政府も巻き込む形で進められないかということです。安倍政権は、政府の成長戦略の一つとして6次産業の検討を開始し、予算を付けてやろうとしています。我々民間だけではスピードも遅いので、これを大々的に進めながら、天草の地を一大オリーブブランドにして、イルカウォッチングをしたり、一流のレストランを招致してきてオリーブ料理のレストランを開いて国内外からお客さんを呼ぶというような形で、天草をブランドとして世界、特にアジアに売り出したい。天草オリーブは、メイドインジャパン、メイドイン天草で、世界的にもきっと人気が出ると思います。特に中国の方々は、健康に非常に関心が高いので、可能性は十分あると思っています。

また、弊社は、海外戦略については3年前から検討しており、去年から具体的に海外事業展開を進めています。やり方としては、ハイブリット型海外事業展開と言っております。右側のガソリンエンジンと左側の電気エンジンを同時多発的に海外に進める。エリアはASEANの国々ですが、去年はマレーシア、ベトナムに現地法人を作りました。これは一つの方式で、基礎はゼロからスタートするというやり方ですが、弊社の持っている人材とネットワークを使い、例えば日本国が進出する造船会社や、化学会社などに伴って我々が一緒に行くというやり方です。

もう一つは、タイやシンガポールを対象にしており、タイには今年、合弁会社を作りました。現地にある優秀なパートナーと業務提携、あるいは資本参加をして、既にパートナーが持っている経営資源を活用しようというやり方です。これを同時並行的にやっっていこうと思っています。そして、現地の優良な企業と一緒に、例えば、これからはミャンマーにも出ていこうと思っています。ミャンマーは、政府が盛んに投資を進めており、バックアップすると言っています。アメリカは、スーチー政権の時代には政府間ではある意味での経済制裁をしておったわけですが、裏ではしたたかにミャンマーとの経済交流を行っておりまして、日本国は遅れていると思います。そういう意味での、

両配分ハイブリット型でいこうと思っています。その際にはぜひ、熊本県とも一緒にやらせていただきたいと思っています。

2点目は、熊本の場合は「農林水産物の輸出について」というのがテーマに上がっています。現在も取り組まれておるかと思いますが、天草の魚介類、水産物を、何とか香港、シンガポール、台湾などに、もっと戦略的に売っていくという具体的な方策をぜひしていただきたいと思います。例えば天草の飛行場から中古の飛行機、安い貨物専用の飛行機を飛ばして、朝採った魚介類を夕方の香港やシンガポールの一流ホテルや、レストランのシェフのもとに届ける。そこで料理を出してもらえば極めて新鮮で美味しいものが食べられるので、すごく高い値段でも売れるわけです。我々は、福岡の生牡蠣を香港、台湾へ持っていこうと思っているのですが、これも非常に高価なものとして珍重がられるということになっています。ぜひそういうものを工夫していただきたいと思います。

最後になりますが、天草には、例えばサバ、まぐろ、あじ、イワシなど素晴らしいお魚が入ります。これを加工品としてオリーブとセットにして、オイルサーディンみたいな形で、マグロのオリーブ詰や缶詰なども売ってはいかがかと思っています。

私は、熊本に2年間だけ勤務したことがあります、大変好きです。素晴らしい資源や水もあります。頑張っていたきたいと思います。

【蒲島議長】

ありがとうございました。それでは松島委員お願いします。

【松島委員】

私は、今から20年ちょっと前に、日本銀行の熊本支店長をやっておりました。そういうご縁で今回も呼ばれたと思います。もう一つ言いますと、私の家内も熊本県出身で、ご縁があるということです。

初めに「アジアとつながる熊本」と知事がおっしゃいましたが、私は正しい選択だろうと思いますので、なぜ正しいのかを確認するところから始めたいと思います。

皆さん地図を開いていただきますと、太平洋を中心として日本が太平洋の西側にあるわけですが、日本の西側には、ヨーロッパとアジアを結ぶ大きなユーラシア大陸というのがあります。このユーラシア大陸というのは、アメリカが登場するまでは、世界の文明と文化の中心の大陸でした。しかし21世紀、今日になりまして、このユーラシア大陸の西半分、ヨーロッパは黄昏の時を迎えています。それに対して東半分のアジアは、非常に勢いを持った成長を遂げていて、世界の成長センターになっています。それが熊本の西側、すぐ隣にある。そして熊本の方から、アジアとの関係におかれている地域的条件等を見ますと、例えば熊本からソウル、熊本から上海というのは、熊本ー東京よりも短いところにあるわけです。地理的にもむしろ、アジアの主要都市の方が近い。それから、東京が首都である日本国政府というのは、財政の能力が低下してきています。無い袖は振れないというような状況になってきているので、未来志向的に考えますと、熊本にとって最も正

しい地政学的なスタンスというのは「look west(西を見ろ)」ではないかと思います。かつて、マレーシアのマハティール首相は「look east(日本を見習え)」ということでした。今我々にとって、学ぶということではありませんが、共に経済を築いていくという意味では、東より西を見た方が熊本にとっては合理性があります。そういう意味では、知事が重点政策の一つとして、「アジアとつながる熊本」というテーマを唱えたのは、大変タイムリーではないかなと思います。

こうした基本的な認識に立ちまして、「アジアとの交流を深める」ことについて、できるだけ具体的な提案をさせていただきたいと思います。ただし、提案の中からは、アジアとの経済や商業的なつながりに関する提案は省略します。もちろん、経済的、商業的なアジアとのつながりにおいて、インセンティブをとるとか、フレームワークを作る、ガイダンスをするなど県の果たす役割はあります。しかし、長期的に考えると、サービスや商業的な価値の移動に伴うことに関しては、やはり最終的には民間の市場原理、需要・供給・価格の関数によって決まってくる。県は、初めのルールを敷いたりすることはありますが、主役は民間企業になってくると思います。その点は今日は省かせていただきまして、文化、スポーツのような非商業的なコンテンツに関するテーマについてお話ししたいと思います。

第1点は、アジアのどこかの都市と交換留学生制度を導入すべきであるということを申し上げたいと思います。この話に入る前に、留学生をどう考えるかという良い例が一つありますので、ぜひ紹介したいと思います。

静岡県の西側に袋井市という人口8万5千人の都市があります。この袋井市では、10年以上、日本に来たベトナムの留学生と市民がこぞって交流を深めており、また、市民が、この10年に4回もベトナムを訪問しています。今年には日本ベトナム国交樹立40周年の記念の年に当たりますが、日本ベトナム合作で、『ファン・ボイ・チャウと日本人の友情』というドラマが制作されて、今年放映されることになっています。ファン・ボイ・チャウというのは、当時ベトナムはフランスの支配下にあったのですが、その当時のベトナムの独立運動の先駆者です。ファン・ボイ・チャウという人は、当時日本が大国のロシアに勝ったので、その日本から学ぼうということで、ベトナムの愛国的な青年を日本に送ったわけです。ピークの1907年には、ベトナムから日本に来た留学生が200名にも達しました。これに対して、当時の中央政府の有力者である犬養毅や大隈重信は、彼らを一生懸命応援したわけです。要するに、アジアの独立運動を支援したのです。しかし、その翌年の1908年になりますと、フランスの政府は日本政府に対して、フランスから独立を目指すような留学生は日本から追放してくれという申し渡しがあり、日本はそれを受け入れたわけです。急にそう言われたこともありまして、日本にいる200名のベトナムの留学生は途方に暮れて迷いました。帰るにしても帰る資金は無い、すぐ帰れないというときに手を差し伸べたのが、当時小田原で病院を経営していました静岡県袋井市出身の浅羽左喜太郎という人です。この人が、当時の校長の月給が17円のとときにポンと1万7千円を出して、「帰る時の費用に充てなさい、そして帰る支度が整うまでは自分の所にいなさい」と世話をしてくれたということです。しかし、この美談は当時の日本政府からすると、追放した人に対して支援したということもあり、地元の人もこの美談は表に出さずにとずっと伏せていたみたいです。ところが、21世紀になり、ファン・ボイ・チャウが浅羽左喜太郎さ

んの努力を顕彰した碑を建立していたので、それを勉強したところからこういう交流が始まり、今ではベトナムと袋井市の交流が非常に強くなってきたということです。

この交流からどういう教訓が得られるかということですが、第一は、外交というのは必ずしも政府の専売特許ではなく、地方でも市民を巻き込んで草の根的な外交を担うことができるということだと思います。2番目は、時の政府の方針に一見逆らうような交流であっても、長い目で見るとむしろ外交のぶれを小さくすることにつながるのではないかと思います。

話はそれますが、今年からNHKの大河ドラマで会津藩の物語の『八重の桜』というのがありますが、これまで会津の話というのは、あまりドラマで日の目を見なかったのですが、決して会津の価値が無いということではなく、やはり会津は賊軍というようなことで遠慮もあったのではないかなと思います。地方の民間外交につきましては、国家外交の基本的な理念は尊重すべきではあると思いますが、地方は地方独自の観点から、市民外交に取り組むことに関して、ぜひためらうことなく取り組んでいただきたい。

現在、先ほども皆さまからお話がありましたが、中国、韓国と政府レベルでは話もうまくいっていません。しかし、こういうときにこそ地方レベルの交流があれば、関係の悪化、遮断は防ぐことができますし、長期的に両国の利益に資すると思います。民間外交が、むしろ国家と国家のもめごとの緩衝材になり緩衝役を果たすことができるということではないかと思います。

交換留学生の話に戻りますが、県は現在、外から中に留学生を受け入れる制度の環境を整備することに力を入ると資料に書いてあります。これは立派な考えだと思いますが、私は更に一歩進めて、アジアの都市との間で、相互に留学生を交換するということをぜひやっていただきたいと思います。やはり来るのを受け入れるというだけではなく、こちらからも送るということになると、この問題に対する取組みがより主体的になると思います。また、来た人をどう受け入れるのかということも、こちらから留学生を出して先方がどういう受け入れ態勢をとるのかを踏まえると、より受け入れ態勢が自立したものになり、システムが持続的になると思います。

そして、これは先ほど古城先生が言われましたが、熊本の若者にとっても、現地で生活することにより、アジアとの心理的な距離が短くなるという面もありますが、それにも増して、内向志向ということに対しても是正する契機になり一石二鳥の効果があるので、ぜひ、留学生の受け入れだけでなく、交換留学生という制度に拡充していただきたい。若干話がそれで恐縮ですが、留学生、あるいは海外との交わりということで、当社（ポストンコンサルティング）での最近の方針を申し上げますと、やはりアジアとつながろうということで、一つはアジアの各拠点とその間で相互にスタッフの交換をえています。長い人で1年、短くて3カ月で、例えば北京、上海、ソウル、オーストラリア、インドネシア等とえています。もう一つは、過去2年間で、中国人のスタッフを、コンサルタントとして25人雇いました。東京の全部のスタッフがアシスタントも含めて350人ですので、約1割弱の人をまとめて雇いましたが、その効果は非常にありました。中国人は、日本にいる留学生からも採りましたし、北京からも採用しました。日本語は話せない方もいますが英語はみんな非常に流暢に話します。ポストンコンサルティングというのは元々グローバルな企業ですが、東京だけ見ると必ずしもグローバルになってはいませんでした。しかし、中国人が来て、その中国人が自分た

ち以上に英語をよく話すということで、自分たちも英語を一生懸命やらなければいけないと刺激されましたし、中国人は非常に頑張って熱心に取り組むので、それも日本人に効果が出ています。ダイバーシティとよく言われますが、ダイバーシティは生産性を上げる上で非常に良い考え、コンセプトであると痛感しています。

2番目は、アジアとのアート、芸術の交流という意見です。熊本には既に20年以上も毎年やっている「カントリーゴールド」という取組みがあります。アメリカ人にはカントリーミュージックが非常に心に染みるということで、日米関係にも大いに貢献しています。数年前カントリーゴールドに来られたアメリカの駐日大使のルースさんは、当初3時間しかない予定を延長して、ほぼ半日おられたということもあります。

こういう音楽の交流の場を、アジア内でぜひ作っていただきたいと思います。アジアというと、もちろん固有の文化がありますので伝統芸能を外すわけにはいかないと思いますが、必ずしも伝統芸能だけにこだわる必要はありません。アジアでも、例えば日本のアニメやコミック、ファッション、ポップスというのは非常に人気があります。一方で、中国や韓国にも日本で人気のある韓流ドラマやKポップスがあります。また、中国には、曲芸や太極拳、健康ブームで見直されているような文化があります。それから、日本や中国、韓国は、世界で通用するようなクラシック界の若手のミュージシャンもいるということです。初めは無理をしないで、どこかの国と結んで交流イベントを開催すればいいかと思います。そういう動きも民間にありますので、全部を県がやる必要はありません。民間がやっているものに後方支援することでもいいのですが、そういう形で始めて実績を積み重ねていければいいのではないかなと思います。

3番目は、スポーツの交流です。アートと同じで、スポーツも知恵を絞ればいろいろな交流のやりかたがあるのではないかなと思います。既に大阪や東京、埼玉などではアジアからの集客を狙って、国際的に知名度の高いイベントと提携し、国際的なスポーツ大会の開催を予定しています。例えば埼玉では、自転車レースで有名なツール・ド・フランスのサテライト大会を10月埼玉市で開催するという予定になっています。相当なお客がくると県は考えています。実は私は、かつてこの未来会議で、阿蘇、あるいは湯布院から熊本までの自転車レースを考えたらどうだろうかと、ツール・ド・フランスならぬ「ツール・ド・阿蘇」のプロジェクトを提案したことがあります。しかし、長期にわたって国道を独占利用するのは大変難しいという説明が県からあったと思います。そのため、阿蘇での自転車レースはされたのだらうと思いますが、非常につましやかにされたのではないかと思います。しかし、埼玉市のように県が本気で取り組めば、公道も自転車レースで1日くらいは開放してもらえるのではないかと思います。阿蘇という雄大な自然もあります。その中で、選手が疾走する姿を思い浮かべるだけで心が躍ります。そういうことであれば、アジアからも選手が参加してくれるのではないかと思います。

今、私は、具体的な話として自転車レースの話を申し上げましたが、その他にもウォーキングやクロスカントリー、いろいろなスポーツがあると思います。また、阿蘇をベースとしたスポーツ大会を申し上げましたが、市内も含めて考えれば、スポーツのイベントもいろいろとあると思います。そうしたリストの中から、アジアからの参加が見込まれるような集客力、予算ということも考えて、ゼ

ひとつでも二つでも、アジアと交流を深めることを念頭に置いたスポーツ大会を熊本でも開催していただきたいと思います。

【蒲島議長】

ありがとうございました。委員からいくつか県に対しての質問がありましたが、それは私の最後の総括の時に答えさせていただきます。大変少ない時間ですが、あと一人3分ずつ話していただければと思います。よろしくお願いします。

【井尻委員】

私は真面目に言っているのですが、熊本の文化戦略として、熊本にタレント養成学校というのがあると思いますが、AKB48、桃色クローバーZが国の補助金をもらって、しかもアジアに展開していますので、そこと結びつけば、福岡県からは松田聖子やチェッカーズなどいろいろな俳優やアイドルが出てきており、熊本から出てくることも可能ではないかという気がしています。もし、その必要性があるならば、秋元氏に会ってもいいと思っています。ただ、アイドルは、つねに若返りをやっていかねばなりません。秋元氏は、もちろんそのあたりを十分認識していると思います。

【数佐委員】

2点だけお話しします。先ほどから、留学生や交換留学生のお話がありましたが、やはりアジアの人が熊本に来て学んで、本国で活躍してもらうのはいい話ですが、長く熊本に定着して、熊本のものづくりの活性化にも貢献していただきたいということです。国のルールはいろいろあると思いますが、熊本の大学を特区扱いにして、極端な話、ビザも全部不要にするとか、優遇してビザを取りやすくする。あるいは、就職も国内に就職できるような企業と横付きにしてしまうと、そういうところを考えていただきたいと思います。私も、長く留学しましたが、相手の大学から奨学金をもらい、極貧の留学生生活ではありましたが、全部大学の方で面倒見ていただいて、非常にすんなり生活できて良かったと思っています。

例えば、大分に立命館のアジア太平洋大学がありますが、あそこの学長さんはインド人の方で、私が当時インドにいた時に、わざわざ私のところに会いに来て、「あなたの会社から留学生をください。それから、留学生がインドに帰る時雇ってください」と言われて実現させました。それくらい頑張っている大学で、就職率が100%と聞いています。日本人が半分くらい、アジア人が半分くらいです。そういったとこまでやっている大学があるので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

もう一つは、先ほどツール・ド・阿蘇というお話がありましたが、HONDAで言えば、熊本は唯一二輪の工場があり、もう浜松ではなくて熊本が二輪のメッカになっていいと思います。ぜひ、二輪の誕生、ホームタウンとして二輪のツーリングのメッカにさせていただきたい。また、知事がいつも言っているように、熊本の医療は日本のトップレベルの医療設備があるわけですから、メディカルツーリズム、医療観光とくっつけて、陸(温泉、ツーリスト、ツーリング)、海(天草)、空すべてに通じる一大リゾートをつくるようなことを進めていただきたいと思います。

【古城委員】

それでは、1点だけお話しします。先ほどから中国の例が出ていますが、いろいろな交流を結ぶ際には、それぞれの国の人々の相手国に対する感情がかなり重要になってきているというのは、昨今の事例で非常によく分かります。そういった点から言っても、東南アジア諸国の対日感情というのはかなり良いというのが、ある程度サーベイ(調査)で出ています。こういう国際的な調査でもそうですが、外務省の調査を行っていても、東南アジア諸国の対日感情というのは、かなり今のところ良いので、先ほど私が東南アジアと言ったのは、そういうことを踏まえて申し上げたということを一付け加えさせていただきます。

【田中委員】

私は、列車の話と観光の話の2点だけお話しします。まず、列車については、九州新幹線の博多―熊本間は、今2年目が終わろうとしていますが、1年目よりも約1%お客が増えており、非常に成功しています。鹿児島より、博多―熊本間の方が増えています。

それから、今JR九州が、一生懸命全世界的に売り出しているクルーズトレイン「ななつ星 in 九州」があります。テーマは自然、食、温泉、歴史、文化など九州の魅力を全世界に発信することです。その代表例が「阿蘇」です。阿蘇を世界に売り出すということですが、実は非常に人気がありまして、今年の10月15日から12月までの第一期分は7倍でした。外国からは、シンガポールや香港など3件ありました。こういうことを増やしていきたいということが1点です。その他にも、熊本にも沢山観光列車を投入しています。「いさぶろう・しんぺい」、「SL人吉」、「あそぼーい!」、「A列車で行こう」などはみんな大変好調です。熊本中心に観光列車を動かしているということです。

もう一つは、観光の呼び込みですが、県は大変力を入れていらっしゃいます。実は観光を振興する団体は日本中沢山あります。九州にも沢山あります。九州で言えば、例えば、九州観光推進機構がありますが、これは県と民間がお金を出し合って、アジアなどから呼び込もうとやっています。また、全日本的には、日本観光振興協会があります。私は、現職で九州支部長であります。熊本県の観光施策は、こういったところと連携、役割分担してやらないと無駄なことになってしまいますので、その辺はよく注意していただきたい。連携やある意味では競争もありますが、九州観光推進機構や、日本観光振興協会を活用したりすることが大事だと思いますので、よろしく願います。

【橋田委員】

私は1点だけ。まず熊本の強みを最大限に発揮して、こういうことをやったらいかがかと思えます。時々、熊本の方々が、熊本の良さというのをどこまで理解されているかと、よそ者である私は思います。水はいいし、温泉が出て、阿蘇や天草のように世界遺産になるようなものもあります。農業にも適しており、非常においしいさつまいもも取れます。それを最大限に生かしたところで、6次産業化ファンドの活用など農業の6次産業化に向けた方策を、ぜひ県が主導してされてもいいですし、我々民間やJAと一緒にされてはいかがかと思えます。政府もきっと、これについて

は応援してくれると思います。イメージとしては、天然の観光資源と農業資源の融合による地域のブランド化です。まさに、天然資源も農業資源も豊富にあります。それから、地域の遊休、余剰資産を活用して、地域に根差したビジネスモデルを作るということです。

また、教育機関、医療、介護サービスとの連携による地域のバリューの増加と、それに伴う安定的な顧客の獲得というものをイメージして、これを融合し、そのためのファンドを創設する。この国はきっとファンドにお金を出すはずですが、今、国はまさにそれを検討していますので、政府と我々民間と一緒にやっておやりになれば如何でしょうか。イメージとしては不動産会社、観光会社、あるいはレストラン会社などに出資を仰いで経営支援をもらう。JAと組んで出資をし、経営支援をもらう。それから6次産業化のファンドを投入して、お金を出してもらう。今申し上げたようなことがやれたらいいと思います。我々も、ぜひ一緒にやって応援したいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

【松島委員】

私は、先ほど提案しました三つの提案について、1点目はコストと経済的な効果をどう考えるか、2点目は県の役割ということでお話したいと思います。

まず、交換留学生については、当初コストだけだろうと思います。しかし、各種のスカラシップや、奨学金制度などを考慮しますと、コストといってもそれほど目くらを立てるようなコストにはならないと思います。

一方、効果については、なかなか計量化して測ることは難しいわけですが、5年を超えるくらいからは、人的なネットワークの効果が目に見えてきて、その後は加速度的にネットワークの拡大ということで、目には見えないがプラスの効果が実感できるようになってくるのではないかと思います。長期的にはお互いに相手国のファンが増えて、親善のきずなが強まるというプラスの効果になってくると思います。アートやスポーツイベントについては、誰がどう運営するのかによって、かなりコストパフォーマンスは変わってくるわけです。こういうイベントが定着してブランド価値が出てくると、直接・間接の効果は極めて大きなものになることは、ゆるキャラ「くまモン」で実証済みです。ものを売るということに何か文化的な香りをつけることによって、経済的な価値が大きく変わってくるということがあります。

2点目は、県の役割についてですが、県が全て自前主義でやる必要はありません。むしろ、餅は餅屋で、例えばアートやスポーツのイベントについては、その道の人に任せれば、企画があってもっと低いコストでできるかもしれません。その場合には、県は後方支援に徹すればいいということだと思います。最悪なのは、少し金を出すだけで、箸の上げ下げまで介入するということだと思います。また、県民の方の意識を高めるために、アイデアを公募するというようなことも考えていいのではないかと思います。また、交換留学制度については、すでに留学制度を導入しているような中高大学があれば、今のシステムに「アジア」と「交換」という二つのコンセプトを付け加えてもらえばいいと思います。そうしたら、何らかのインセンティブを与えるということで、やるべきではないかなと思います。

最後に、今軽井沢で、アジア各国のリーダー育成を目指した全寮制のインターナショナルスクールが、来年開校する予定になっています。この設立のために奔走しているのが、小林りんさんという非常に経験豊かな女性です。交換留学制度を県が考えるに当たって、この小林さんと会えば新しいアイデアのひらめきもあるのではないかなと思いますので、もしご希望があればご紹介したいと思います。

【蒲島議長】

長時間にわたって、ご意見を賜り誠にありがとうございます。少し時間がありますので、いくつかコメントしたいと思います。

先ほど井尻委員から、尖閣諸島の問題についてお話がありましたが、ぜひ次回は、そういう中で熊本県が対中関係をどう築くか、郭声琨（カクセイコン）さんのお手紙にもありましたような観点からお願いします。

松島委員は、こういふときだからこそ地方間の交流を進めるべきという話がありましたが、そのことについても次回はお聞きしたいと思っています。

数佐委員は、何よりも、HONDAの二輪車の熊本工場をマザー工場化していただき、研究開発部門も全部熊本に集めてくださったことにお礼を申し上げたいと思います。HONDAさんを通して、海外との交流、アジアとつながる方策をぜひ一緒にやりたいと思っています。

古城委員は、東南アジアの重要性についてお話いただき、インドネシアへの取組みはやっていないのかお尋ねがありましたが、今熊本もタイやインドネシアなど東南アジアに目を向けています。ハラルという観光の問題も含めながら、東南アジアにも目を向け、チャイナプラスワンという形でいきたいと思っています。

それから井尻委員は、ずっと学会とのつながりしかなかったものですから、私の生まれ故郷の鹿本町庄にお母さんの実家があるというのは初めて知りました。古城委員も、ご主人の父方が熊本出身だと聞いて驚きました。古城委員とも全く学会との付き合いだったので、初めて聞いて大変うれしく思いました。

それから、田中委員から、企業が海外に進出する際の助成はあるのかというお尋ねがありましたが、海外投資に対する助成はありませんが、販路開拓のための調査費等の助成は行っています。それから、アドバイザーの制度などもあります。皆さんにお配りした資料の3ページと5ページに、具体的な助成の内容を記載しています。また、熊本を観光の中心にしているという力強い田中委員の言葉を聞いて大変うれしく思いました。我々も頑張って熊本の魅力をPRしていきたいと思っています。

橋田委員は、熊本が大好きですので、前から私がお願いしているように、ぜひ本社を熊本においていただければ、アジアとつながる一番の方策ではないかと思えます。私が知事で、橋田委員が社長の時でないといけないかもしれませんので、ご検討ください。

松島委員、どうもありがとうございます。交換留学の話やカントリーゴールドの話、スポーツの交流、自転車レースの話など、とても具体性に富んだ提案でありますので、ぜひ我々も検討してい

たいと思っています。

大変短い時間で多くのご意見をいただきました。将来、熊本県の政策の二番目の柱である「アジアとのつながり」、「アジアとの交流」を具体化していく一つのきっかけになると思いますので、大変今日はありがとうございました。

質問の時間を設けたかったのですが、今日は時間がなくて、今日いらっしゃった参加者の皆さんには大変悪いことをしましたが、お許してください。それでは事務局の方にはお返しします。

【事務局】

委員の皆様、長時間ありがとうございました。議事録は後日、県のホームページに掲載させていただきます。